

## 2027 年度 天理よろづ相談所病院皮膚科

### A. 専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療 技能 を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療 情報の開示など社会的要望に応える。

### B. プログラムの概要：

本プログラムは、公益財団法人天理よろづ相談所病院を研修基幹施設として、大津赤十字病院、長浜赤十字病院、滋賀県立総合病院、医療法人財団医道会十条武田リハビリテーション病院、医療法人医仁会武田総合病院、社会福祉法人京都社会事業財団京都桂病院、医療法人社団洛和会洛和会音羽病院、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、国立大学法人京都大学医学部附属病院、高槻赤十字病院、公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院、社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会野江病院、国家公務員共済組合連合会枚方公済病院、社会福祉法人恩賜財団済生会支部大阪府済生会中津病院、兵庫県立尼崎総合医療センター、日本赤十字社和歌山医療センター、独立行政法人国立病院機構鹿兒島医療センター、大阪赤十字病院、神戸市立医療センター中央市民病院、公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院を研修連携施設として、福井赤十字病院、北山武田病院、武田病院、宇治武田病院、医療法人徳洲会宇治徳洲会病院 皮膚科、医療法人啓信会京都きづ川病院 皮膚科、三菱京都病院 皮膚科、医療法人清仁会洛西ニュータウン病院 皮膚科、関西電力病院 皮膚科、赤穂市民病院 皮膚科、公立豊岡病院 組合立豊岡病院 皮膚科を準連携施設として加えた研修施設群を統括する研修プログラムである。

なお、本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。  
(項目 J を参照のこと)

### C. 研修体制

研修基幹施設：公益財団法人 天理よろづ相談所病院皮膚科

研修プログラム統括責任者（指導医）：古田 浩大 専門領域：皮膚病理

指導医：手塚 純子 専門領域：皮膚科学一般

施設特徴：

研修基幹施設には、専攻医の研修を統括的に管理するための組織として 以下の 研修管理委員会を 置く。

研修連携施設：大津赤十字病院

所在地：滋賀県大津市長等1丁目1-35

プログラム連携施設担当者（指導医）：福岡 美友紀

特徴：施設特徴：当院は滋賀県の基幹病院であり、ありふれた皮膚疾患から稀少な皮膚疾患まで多様な症例を経験することができる。重症薬疹や重症皮膚感染症をはじめとする救急疾患も数多い。豊富で多様な症例を通して、プライマリケアから専門的な知識・手技に至るまで皮膚科専門医に必要なとされる臨床経験を十分に積むことができる。

研修連携施設：長浜赤十字病院

所在地：滋賀県長浜市宮前町1 4 番 7 号

プログラム連携施設担当者（指導医）：川端 紀子

特徴：施設特徴：長浜市で皮膚科常勤医のいる唯一の総合病院であり、common diseaseから難治性疾患まで幅広い症例が集まり、豊富な経験を積むことが可能。ナローバンドUVBやエキシマライトを用いた紫外線療法、円形脱毛症に対するSADBE療法などを行うことにより、各疾患の病態に迫った治療を行っている。毎週金曜日に手術室を利用し、日帰りまたは入院で皮膚良性腫瘍・悪性腫瘍の手術を行っており、皮膚外科基本手技の修練にも適している。週1回の通常カンファレンスのほか、月1回の近隣の皮膚科勤務医・開業医とのカンファレンスを行うことで複数の経験豊富な医師と意見交換ができ、知見を深め地域内での連携も強めている。

研修連携施設：滋賀県立総合病院

所在地：滋賀県守山市守山5丁目4番30号

プログラム連携施設担当者（指導医）：中川 雄仁

特徴：地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。

研修連携施設：医療法人財団医道会 十条武田リハビリテーション病院

所在地：京都市南区吉祥院八反田32

プログラム連携施設担当者（指導医）：米田 耕造

特徴：指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。

研修連携施設：医療法人医仁会 武田総合病院

所在地：京都市伏見区石田森南町28-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：松井 美萌

特徴：指導医のもと、外来診療、入院症例、他科からの対診症例、救急症例から実臨床を学ぶことが出来る。

研修連携施設：社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院

所在地：京都市西京区山田平尾町17番地

プログラム連携施設担当者（指導医）：石川 牧子

特徴：指導医の下、市中病院の勤務医として、外来/病棟診療、処置、手術法を習得する。

研修連携施設：医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院

所在地：京都市山科区音羽珍事町2

プログラム連携施設担当者（指導医）：清水 ちひろ

特徴：指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。

研修連携施設：独立行政法人国立病院機構京都医療センター

所在地：京都市伏見区深草向畑町1-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：十一 英子

特徴：施設特徴：伏見区を中心とする京都南部の中核病院であり、ベッド数は600床である。緩和病棟・PETも導入しており、総合病院の機能を拡大している。乾癬の生物製剤使用承認施設であり、糖尿病足病変に対してはチーム医療を行っており、他院からの紹介患者が多い。院内でも腫瘍内科をはじめ各科から薬疹などの診療依頼が多く、当該科と連携して診療している。褥瘡委員会の中心となり、WOC (wound, ostomy, and continence) 看護師と共に病院全体の褥瘡対策を行っている。

研修連携施設：国立大学法人 京都大学医学部附属病院

所在地：京都市左京区聖護院川原町54番地

プログラム連携施設担当者（指導医）：椋島 健治

特徴：指導医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。

研修連携施設：高槻赤十字病院

所在地：大阪府高槻市阿武野1-1-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：古川 福実

特徴：施設特徴 ① 尋常性乾癬に対する生物学的製剤治療の日本皮膚科学会認証施設である。難治症例に対して、適応を見極めた上で、慎重かつ積極的に導入している。② 皮膚腫瘍に関しては、ダーモスコピーおよび組織検査を併用して、確実な診断が可能である。良性・悪性にかかわらず、診断を積極的に行い、治療に関しては、形成外科とも連携して行っている。③ 褥瘡、糖尿病性足潰瘍などの皮膚潰瘍の治療も積極的に行っている。陰圧閉鎖療法 (NPWT) も適応を見極め積極的に行っている。④ 他科の化学療法（特に分子標的薬）による皮膚障害に対しては、細やかな対応を心がけ、極力本来の治療が滞ることのないようサポートしている。

研修連携施設：公益財団法人田附興風会 医学研究所北野病院

所在地：大阪市北区扇町2丁目4番20号

プログラム連携施設担当者（指導医）：吉川 義顕

特徴：施設特徴：大阪市内の主要病院として、皮膚科においても多くの外来患者の診察にあたっている。一日平均120名にのぼり、局所麻酔による生検を含む年間外来手術は600件を超える。また、乾癬患者に対する生物学的製剤を用いた治療症例は100名を超えている。研究面で皮膚科スタッフのみならず他科あるいは他病院との連携のもと、多様な臨床研究創出している。

## 研修連携施設：社会福祉法人恩賜財団 大阪府済生会野江病院

所在地：大阪市城東区古市1丁目3番25号

プログラム連携施設担当者（指導医）：谷口 君香

特徴：施設特徴：当院は大阪市東部地域（鶴見区、城東区、旭区）の基幹病院であり、地域医療支援病院、大阪府がん診療拠点病院、厚労省臨床研修病院(管理型)で400病床数30診療科の一般急性期病院である。多様な皮膚臨床であるが、当院では分野に特定せず幅広く皮膚科のcommon diseaseをきちんと診て治療することで地域医療に貢献している。尋常性乾癬では生物学的製剤の使用認可施設であり、皮膚腫瘍については当科で対応可能なものについては、手術療法や外用療法など行い、当方で対応できない場合は、当院形成外科や大規模基幹病院に紹介している。なお、当科は、皮膚疾患治療用レーザーや紫外線照射装置、美容皮膚科用機材は所持していない。

## 研修連携施設：国家公務員共済組合連合会 枚方公済病院

所在地：大阪府枚方市藤阪東町1-2-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：立花 隆夫

特徴：施設特徴：尋常性乾癬などに対する光線療法（NBUVB）を積極的に行っており、重症の尋常性乾癬に対し生物学的製剤を使用する。薬疹、接触皮膚炎などの原因検索目的にパッチテストを積極的に行っている。陥入爪、巻き爪に対するガター法、超弾性ワイヤー法、クリップ法などを組み合わせた治療も行なう。円形脱毛症に対する局所免疫療法（SADBE 外用）、ステロイドパルス療法も実施している。良性皮膚腫瘍のデイスージャリー、炭酸ガスレーザーや高周波メスによる良性皮膚腫瘍の焼灼術も行なう。入院症例は帯状疱疹、蜂窩織炎、皮膚潰瘍、水疱症、薬疹、紅皮症などである。PADに伴う皮膚潰瘍については、血管内科、心臓血管外科との連携で血流再建術を実施する。壊死性筋膜炎など重症軟部組織感染症、皮膚悪性腫瘍、全身麻酔を必要とする手術症例は、適宜近隣の大学病院等に紹介している。

## 研修連携施設：社会福祉法人恩賜財団済生会支部 大阪府済生会中津病院

所在地：大阪市北区芝田2-10-39

プログラム連携施設担当者（指導医）：荒井 利恵

特徴：施設特徴：外来患者数は1日平均80名で、豊富な経験を積むことが可能である。年間皮膚生検・手術件数は300例を超える。

## 研修連携施設：兵庫県立尼崎総合医療センター

所在地：兵庫県尼崎市東難波町2丁目17番77号

プログラム連携施設担当者（指導医）：工藤 比等志

特徴：施設特徴：2015年7月に兵庫県立尼崎病院、塚口病院が移転統合（条例上は尼崎病院の移転改称）して発足した新病院である。尼崎市のみならず、阪神南・北地域全体を対象にした、730床、医師数約300名の高度急性期医療を担う。通常の皮膚疾患から重症例、難治例、悪性疾患にいたる幅広い症例を経験できる。

## 研修連携施設：日本赤十字社 和歌山医療センター

所在地：和歌山県和歌山市小松原通4丁目20

プログラム連携施設担当者（指導医）：米井 希

特徴：施設特徴：和歌山県における基幹病院の一つとして、また救急医療に重点を置く急性期病院として、診断が困難な症例、治療に難渋している症例、入院治療を必要とする症例を受け入れて、病状を正確に評価し、短期集約的に治療を行い、寛解に持ち込むのを基本方針としている。日常的なものから比較的稀なものまで多彩な皮膚疾患を診療対象としているが、皮膚症状によっては全身疾患、内臓疾患の早期症状、部分症状であることもあり、その検索は精力的に行っている。皮膚科診療でしばしば遭遇する多くの境界領域疾患に対しては、院内の他科とも相互補完的に診療している。また、同じ疾患であっても各個人の立場、事情をきめ細かく把握し、QOLを重視して対処法を考慮している。治療方針を確立したあとは地域医療機関への逆紹介も積極的に行い、皮膚科領域での病診連携ないし病病連携の構築も目指している。

研修連携施設：独立行政法人 国立病院機構 鹿児島医療センター

所在地：鹿児島県鹿児島市城山町8番1号

プログラム連携施設担当者（指導医）：松下 茂人

特徴：施設特徴：平成26年10月に新設した鹿児島県内の皮膚悪性腫瘍の診療を中核として担う施設であり、年間手術件数は、開設以来1年で600件以上にのぼる。手術のみでなくがん薬物療法も数多く行っている。さらに日本臨床腫瘍グループ（JCOG）皮膚腫瘍グループ参加施設であるため、皮膚悪性腫瘍における医師主導型多施設共同研究にも参加しており、臨床研究においても充実している。上記のとおり、日本でも有数のがん治療の中心施設であることから、本プログラムの連携施設として登録している。

研修連携施設：大阪赤十字病院

所在地：大阪市天王寺区筆ヶ崎町5番30号

プログラム連携施設担当者（指導医）：八木 洋輔

特徴：施設特徴：アトピー性皮膚炎や乾癬など、皮膚疾患には慢性に経過し、精神的なストレスなどで増悪する疾患が少なくない。患者さんが自分の疾患と病態をしっかりと理解しながら、長期にわたって治療に取り組むことがもっとも大切と考え診療を行なっている。十分な説明を通し、病気を理解して貰うことを常に心がけている。専門外来として、アトピー性皮膚炎外来、乾癬外来、爪外来・足病変外来、ケミカルピーリング外来を設ける。外来患者数は1日平均約100名、年間手術件数は550名を超え、豊富な経験を積める。

研修連携施設：神戸市立医療センター中央市民病院

所在地：神戸市中央区港島南町2-1-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：長野 徹

特徴：施設特徴：神戸地区の中核病院である。日常的な皮膚疾患から、難治性の疾患まで、皮膚疾患全般の診療を行う。幅広い経験が可能である。

研修連携施設：公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

所在地：岡山県倉敷市美和1-1-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：大谷 稔男

特徴：施設特徴：皮膚科入院患者の疾患別内訳は感染症や自己免疫疾患、薬疹、悪性腫瘍（化学療法）が多い。また、病院全体では患者数ランキング全国1位を誇り、他科の疾患とも関連した豊富な症例を経験できる。指導医とマンツーマンの勉強会も随時可能である。症例発表にも力を注ぎ、皮膚科専門医に必要な思考力や表現力を養成する。

研修準連携施設：福井赤十字病院

所在地：福井県福井市月見2丁目4番1号

研修準連携施設：北山武田病院

所在地：京都市北区上賀茂岩ヶ垣内町99番地

研修準連携施設：武田病院

所在地：京都市下京区塩小路通西洞院東入東塩小路町841-5

研修準連携施設：宇治武田病院

所在地：京都府宇治市宇治里尻36-26

研修準連携施設：医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院 皮膚科

所在地：京都府宇治市槇島町石橋145

研修準連携施設：医療法人啓信会 京都きづ川病院 皮膚科

所在地：京都府城陽市平川西六反26-1

研修準連携施設：三菱京都病院 皮膚科

所在地：京都府京都市西京区桂御所町1

研修準連携施設：医療法人清仁会 洛西ニュータウン病院 皮膚科

所在地：京都市西京区大枝東新林町3-6

研修準連携施設：関西電力病院 皮膚科

所在地：大阪市福島区福島2丁目1番7号

研修準連携施設：赤穂市民病院 皮膚科

所在地：兵庫県赤穂市中広1090番地

研修準連携施設：公立豊岡病院組合立豊岡病院 皮膚科

所在地：兵庫県豊岡市戸牧1094

#### 研修管理委員会に関して

研修基幹施設には、専攻医の研修を統括的に管理するための組織として以下の研修管理委員会を置く。研修管理委員会委員は研修プログラム統括責任者、プログラム連携施設担当者、指導医、他職種評価に加わる看護師等で構成される。研修管理委員会は、専攻医研修の管理統括だけでなく専攻医からの研修プログラムに関する研修評価を受け、施設や研修プログラム改善のフィードバックなどを行う。専攻医は十分なフィードバックが得られない場合には、専攻医は日本専門医機構皮膚科領域研修委員会へ意見を提出できる

#### 研修管理委員会委員：

- 委員長：古田 浩大 (天理よろづ相談所病院)
- 委員：中川 雄仁 (滋賀県立総合病院)
- 委員：米田 耕造 (医療法人財団医道会 十条武田リハビリテーション病院)
- 委員：松井 美萌 (医療法人医仁会 武田総合病院)
- 委員：石川 牧子 (社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院)
- 委員：清水平 ちひろ (医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院)
- 委員：梶島 健治 (国立大学法人 京都大学医学部附属病院)
- 委員：工藤 比等志 (兵庫県立尼崎総合医療センター)
- 委員：福岡 美友紀 (大津赤十字病院)
- 委員：川端 紀子 (長浜赤十字病院)
- 委員：十一 英子 (独立行政法人国立病院機構京都医療センター)
- 委員：古川 福実 (高槻赤十字病院)
- 委員：吉川 義頭 (公益財団法人田附興風会 医学研究所北野病院)
- 委員：谷口 君香 (社会福祉法人恩賜財団 大阪府済生会野江病院)
- 委員：立花 隆夫 (国家公務員共済組合連合会 枚方公済病院)
- 委員：荒井 利恵 (社会福祉法人恩賜財団済生会支部 大阪府済生会中津病院)
- 委員：米井 希 (日本赤十字社 和歌山医療センター)
- 委員：松下 茂人 (独立行政法人 国立病院機構 鹿児島医療センター)
- 委員：八木 洋輔 (大阪赤十字病院)
- 委員：長野 徹 (神戸市立医療センター中央市民病院)
- 委員：大谷 稔男 (公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院)

#### 他科・他職種

- 委員：柏田真由 (天理よろづ相談所病院看護部部長)
- 委員：小笠原芳恵 (天理よろづ相談所病院西5病棟師長)

研修資源実績（外来患者数・入院患者数・指導医数：本プログラムの按分数）

	1日平均外 来患者数	1日平均入 院患者数	局所麻酔年間手術 数（含生検術）	全身麻酔 年間手術 数	指導 医数
公益財団法人 天理よろづ相談 所病院	74.9	1	327	0	2
大津赤十字病院	1	0.1	261	0	0.2
長浜赤十字病院	1	0.2	260	1	0.1
滋賀県立総合病院	1	0.1	281	0	0.1
医療法人財団医道会 十条武田 リハビリテーション病院	2	1.4	38	0	0.2
医療法人医仁会 武田総合病院	1	0.1	332	3	0.1
社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院	1	0.1	145	0	0.1
医療法人社団洛和会 洛和会音 羽病院	1	0.1	115	0	0.2
独立行政法人国立病院機構京都 医療センター	1	0.1	391	0	0.1
国立大学法人 京都大学医学部 附属病院	1	1	1766	127	0.1
高槻赤十字病院	0.1	0.1	129	0	0.1
公益財団法人田附興風会 医学 研究所北野病院	1	0.1	362	0	0.1
社会福祉法人恩賜財団 大阪府 済生会野江病院	0.1	0.01	291	0	0.01
国家公務員共済組合連合会 枚 方公済病院	2	0.25	235	31	0.1
社会福祉法人恩賜財団済生会支 部 大阪府済生会中津病院	1	0.1	321	0	0.1
兵庫県立尼崎総合医療センター	10	0.5	404	0	0.2
日本赤十字社 和歌山医療セン ター	1	0.1	349	0	0.1
独立行政法人 国立病院機構 鹿児島医療センター	1	0.1	922	191	0.05
大阪赤十字病院	1	1	848	46	0.1
神戸市立医療センター中央市民 病院	1	0.1	1000	109	0.05
公益財団法人大原記念倉敷中央 医療機構 倉敷中央病院	1	0.05	345	0	0.03
合計	104.1	6.61	9122	508	4.14

#### D. 募集定員：1名

①通常プログラム：1名

#### E. 研修応募者の選考方法：

プログラムへの応募希望者は、当院人事課へメールで申し込みを行う。申し込みがあり次第、人事課より所定の応募書類（応募申込書、履歴書、臨床研修指導医、あるいは、臨床研修責任者の推薦状）を送付する。上記必要書類に医師免許証（写）、学業成績証明書（最終年次のもの）を添えて書留便で、締切日までに送付を行う。日程について、日本専門医機構の発表するスケジュールに従い採用選考試験（面接試験、小論文）を行い、2週間以内に採否を決定し本人に文書で通知する。募集は皮膚科専門医研修プログラム全体として行う。採用にあたり、適宜、履歴書審査、院長面談等を実施する。問い合わせ先、及び、応募先は、〒632-8552 奈良県天理市三島町 200 番地 天理よろづ相談所病院 人事課 TEL 0743-63-5611（内線 8513） E-mail jinji@tenriyoroju.jp

#### F. 研修開始の届け出：

選考に合格した専攻医は、研修開始年の3月31日までにプログラム登録申請書（仮称）に必要な事項を記載のうえ、プログラム統括責任者の署名捺印をもらうこと。その後、同年4月30日までに皮膚科領域専門医委員会（hifu-senmon@dermatol.or.jp）に通知すること。

**G. 研修プログラム 問い合わせ先：**

天理よろづ相談所病院皮膚科  
古田浩大

TEL：0743-63-5611  
FAX：000-000-0000

**H. 到達研修目標：**

本研修プログラムには、いくつかの項目において、到達目標が設定されている。別冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリキュラムの p.26～27 には経験目標が掲示しているので熟読すること。

**I. 研修施設群における研修分担：**

それぞれの研修施設の特徴を生かした皮膚科研修を行い、研修カリキュラムに掲げられた目標に従って研修を行う。

1. 天理よろづ病院皮膚科では医学一般の基本的知識技術を習得させた後、難治性疾患、稀な疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培う。また、少なくとも1年間の研修を行う。
2. 連携施設である 1. 京都大学 皮膚科、2. 洛和会音羽病院皮膚科、3 京都桂 病院皮膚科、4 武田総合病院皮膚科、5 十条武田リハビリテーション病院皮膚科では、頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、天理よろづ相談所病院皮膚科の研修を補完する。
3. 準連携施設である 1 北山武田病院皮膚科、2 公立豊岡病院皮膚科、3 京都きつ川病院皮膚科、4 赤穂市民病院皮膚科、5 康生会武田病院皮膚科、6 宇治武田病院皮膚科、7. 関西電力病院皮膚科、8 滋賀県立総合病院 皮膚科、9 三菱京都病院では一人医長として最長2年間の研修を行う可能性がある。ここで研修する専攻医は、天理よろづ相談所病院皮膚科の指導医と密に連絡を取り、診療の相談、カンファレンスへの参加を随時行う。上記の連携研修施設または、指導医不在の一人医長として研修を行う準連携施設で、原則として少なくとも3ヶ月の研修を行う。

**J. 研修内容について****1. 研修コース**

本研修プログラムでは以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。ただし研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得る。また、記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性がある。

コース	研修1年目	研修2年目	研修3年目	研修4年目	研修5年目
a	基幹	基幹	連携	連携	基幹
b	基幹	基幹	連携	連携	連携
c	連携	連携	基幹	基幹	準連携

a：研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。最終年次に後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。連携施設は原則として1年ごとで異動するが諸事情により2年間同一施設もあり得る。

b：ただちに皮膚科専門医として活躍できるように連携施設にて臨床医としての研修に重点をおいたコース。

c：研修5年目に一人医長として研修準連携施設で研修し、地域医療の経験を積むことで、更に臨床医としての研修に重点をおいたコース。

**2. 研修方法****1) 公益財団法人 天理よろづ相談所病院皮膚科**

外来：診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。また、指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。

病棟：部長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎月の病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。

抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

## 研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 手術	外来	外来	外来	外来		
午後	往診 病棟 回診	病棟 手術 往診	病棟 手術 症例カンファ レンス	手術 病棟 病理カンファ レンス	褥瘡 病棟		

※宿直は2回/月を予定

## 2) 連携施設

## 大津赤十字病院：

指導医のもとで、地域医療の中核病院の勤務医として第一線の救急医療、処置、手術などを習得する。カンファレンス、抄読会を週1回行い皮膚科学全般にわたり学習する。さらに病理部との合同カンファレンスを週1回、形成外科との合同カンファレンスを月1回行うことで病理診断や手術症例についても各専門医の指導のもとで学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行い、論文を年に1編以上発表する。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーには積極的に参加し、病院が実施する医療安全講習会にも定期的に参加する。

## 研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後1	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟		
午後2	手術	外来・手 術	外来・手 術	外来・手 術・褥瘡 回診	外来・カ ンファレ ンス		
その他						宿直	宿直

宿直は1回/月を予定

## 長浜赤十字病院：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。週1回のカンファレンスおよび月1回の近隣の皮膚科とのカンファレンスに参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

## 研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	処置	外来	外来		
午後1	病棟	病棟	病棟	病棟・外 来	病棟		
午後2	カンファ レンス			カンファ レンス	手術		

病棟管理当直3~4回/月

## 滋賀県立総合病院：

皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

## 医療法人財団医道会 十条武田リハビリテーション病院：

京都大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

## 医療法人医仁会 武田総合病院：

臨床カンファレンス、創傷カンファレンス（形成外科医、循環器内科医、WOC認定看護師などと開催）を通じて個々の症例の理解を深めることが可能である。年に数回の学会発表をはじめ、学会、カンファレンス、地域の医師との症例検討会などにも参加して研鑽を積む事が出来る。院内研修会（医療安全、褥瘡委員会等）では、大学教官等に来院いただいております、知識のブラッシュアップを図ることが可能である。

社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院：

病理医とのカンファレンスは月1回程度あり、症例検討を行いながら学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講。学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。

医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院：

京都大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

独立行政法人国立病院機構京都医療センター：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法や、皮膚科医として必要な診断力と診療技術を習得する。カンファレンスで症例検討を行い、症例についての理解を深める。生検症例はすべて病理カンファレンスで直接所見をよむ。複数科で診療する症例は、他科との合同カンファレンスで治療方針を検討し、チーム医療を学ぶ。褥瘡回診に参加し、褥瘡対策を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，筆頭演者として学会発表を行い、論文を執筆する。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来・生検・処置	外来・生検・処置	外来・手術	外来・生検・処置	外来・生検・処置		
午後1	病棟・回診	病棟	病棟・褥瘡回診	病棟・病理	病棟・回診		
午後2	合同カンファレンス*	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	当直*	

\*糖尿病足病変カンファレンス、皮膚形成カンファレンスを各1回/月；\*当直は2回/月を予定

国立大学法人 京都大学医学部附属病院：

カンファレンス，抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

高槻赤十字病院：

外来患者数は40～50人。アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触皮膚炎、尋常性乾癬、水疱性類天疱瘡、尋常性ざ瘡などの炎症性皮膚疾患、帯状疱疹、蜂窩織炎、白癬などの感染性皮膚疾患、円形脱毛症、陥入爪など皮膚付属器疾患、また、褥瘡、足潰瘍、皮膚腫瘍、化学療法による皮膚障害などの診療を行っている。地域の最終病院としての自覚を持ち、どんな皮膚疾患にも、積極的に対応している。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後1	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟		
午後2	褥瘡外来	外来	カンファレンス		カンファレンス*	宿直*	

\*宿直は1、2回/月を予定 \*金曜日PMのカンファレンスは大阪医科大皮膚科カンファレンスに参加(1、2回/月)

公益財団法人田附興風会 医学研究所北野病院：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。院内皮膚科のカンファレンスに週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	病棟	外来	外来・手術	外来	外来(月2回)	
午後	病棟	病棟	病棟・手術・回診	カンファレンス	外来	宿直※	

※宿直は3回/月を予定(宿直は不定曜日であるが、その翌日は外来を行わないことを原則としている。)

社会福祉法人恩賜財団 大阪府済生会野江病院：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の皮膚科臨床、処置、手術法を習得する。他科との院内連携として院内褥瘡回診勉強会に毎週参加する。病院が実施する医療安全講習会や感染対策講習会に定期的に参加する。地域医療の勉強会を熱心に行っており、紹介患者の経過報告や連携患者の対策など地域連携を学ぶ会合に積極的に参加する。また、皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来・手術	外来		
午後	病棟・褥瘡回診	病棟・生検	病棟・手術・カンファレンス	病棟・外来処置	病棟・外来処置		

国家公務員共済組合連合会 枚方公済病院：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、救急医療、処置、手術法を習得する。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後1	病棟・処置	病棟・処置	病棟・処置	病棟・処置	病棟・処置		
午後2			褥瘡回診・カンファレンス				

当直：救急(外科) 当直 1回/月程度の予定

社会福祉法人恩賜財団済生会支部 大阪府済生会中津病院：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、救急医療、処置、手術法を習得する。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午後	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟・処置	病棟・処置	病棟・処置	病棟・処置	病棟・処置		

当直：救急(外科) 当直 1回/月程度の予定

## 兵庫県立尼崎総合医療センター：

指導医の下、週に3回の午前中外来を担当し、3名程度の入院患者を主治医として受け持つ。診療科として重点を置いている重症、難治例だけでなく、通常の皮膚疾患を含めた幅広い症例に対応できる能力を習得できるようにする。年に2回以上学会発表を行うとともに、発表内容をもとに論文を執筆する。週1回のカンファレンスおよび皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。

## 研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟		
午後2	カンファレンス		手術				

※宿直は1-2回/月を予定

## 日本赤十字社 和歌山医療センター：

地域医療の中核病院の勤務医として、まず電子カルテシステムに習熟し、皮膚科外来診療のエッセンスを会得し、入院診療では代表的皮膚疾患の標準的治療法等を習得する。また診療の補助的業務をこなす中で、各種処置法、手技を身につける。週1回の臨床カンファレンスに参加し、肉眼所見、病理組織所見のとらえ方を学ぶ。月1から2回の最新英文論文の抄読会で学習成果を発表する。褥瘡回診や褥瘡カンファレンスを通してチーム医療に関与する。日本皮膚科学会主催の必須講習会を年1回受講し、年に2回程度筆頭演者として学会発表を行う。年1篇の症例報告論文を執筆する。レセプトチェックを通して保険診療の要点を理解する。近隣で行われる皮膚科関連学会、学術講演会、セミナーなどに積極的に参加して最新の知識を身につけるとともに、顔の見える形での病診連携を実践する。病院内で実施される医療安全講習会、院内感染対策研修会、医療倫理研修会などに積極的に出席する。地域で開催される緩和ケア講習会にも参加する。

## 研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟		
午後2	褥瘡カンファレンス		カンファレンス				

※初療室の日当直は月2回程度割り当てられ、オンコール当番を月10-15日ぐらい務める。18.倉敷中央病院

## 独立行政法人 国立病院機構 鹿児島医療センター：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、皮膚腫瘍の診療（診断・皮膚外科・がん薬物療法など）を主に習得する。週に1回行われる病理・症例検討会、術前検討会に参加して学習する。月に1回当科主催で病理診断医・形成外科医・開業皮膚科医と合同で行っている皮膚病理カンファレンスに参加して学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

## 研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	手術	手術	病棟	手術	手術		
午後2	病棟	病棟	カンファレンス	病棟	病棟	宿直※	

※宿直は1回/月を予定

## 大阪赤十字病院：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。京都大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

## 研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来・病棟	外来	外来・病棟	外来・病棟	外来		
午後	病棟・手術	gairai nakaguro 病棟	病棟・手術	病棟・手術	病棟		
午後2		カンファ レンス		カンファ レンス		宿直*	

\*宿直は1-2回/月を予定

## 神戸市立医療センター中央市民病院：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。神戸大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

## 研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	手術	外来・褥瘡 回診	手術	外来		
午後	病棟・外来	手術・カン ファレンス	病棟・外 来	手術	病棟・外 来		

宿直は2回/月を予定

## 公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院：

外来では紹介を含め新患も担当し、症例検討会で受け持ち患者を提示する。また、入院患者の主治医として検査や治療を行い、カンファレンスでプレゼンテーションを行う。他科入院患者や救急患者の診断・治療にも積極的に関わる。講演会や勉強会に参加して見識を広める。学会や研究会で、年3回以上の症例報告を行い、年2編以上、論文で発表する。

## 研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	病棟	外来	外来	外来	
午後	外来	外来	病棟	病棟	外来		
午後2	病棟	病棟	カンファ レンス・ 症例検討 会	講演会	病棟		

土曜外来は隔週；宿直は1回/月程度

## 3) 研修準連携施設

## 福井赤十字病院

福井県の基幹病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、悪性皮膚腫瘍の手術、膠原病を含めたあらゆる皮膚疾患を経験する。乾癬に対して生物学的製剤の導入を積極的に施行し、福井県の医療に貢献する。またアザ、シミに対しての最新式のQスイッチルビーレーザーによる美容皮膚科の研修も経験する。京都大学医学部皮膚科のカンファレンス、週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

## 北山武田病院

美容治療を推進している特徴を活かして研修を行う。研修内容は内科入院患者の皮

膚科・褥瘡回診と、一般皮膚科および美容皮膚科の外来診療・施術が主となる。また診療に難渋する症例は、大学病院に患者紹介や診療相談を行うことにより、病診連携を習得する。

#### 武田病院

研修内容は内科入院患者の皮膚科・褥瘡回診と、一般皮膚科の外来診療が主となる。また診療に難渋する症例は、大学病院に患者紹介や診療相談を行うことにより、病診連携を習得する。

#### 宇治武田病院

地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の皮膚科医療、処置手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に1回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

#### 研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟		
午後2			カンファレンス・抄読会				

#### 医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院

市中病院の勤務医として、外来/病棟診療、処置、手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講。学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。

#### 医療法人啓信会 京都きづ川病院

きづ川病院は地域医療を担う重要な病院である。皮膚科医として独立した診療が出来るよう経験と知識をより深化するため専門研修の後半に1年間に限り、1人での診療を行うことがある。また、大学病院や、手術を必要とする患者を希望に応じて近隣の形成外科を有する施設(宇治徳洲会病院、宇治武田病院)に紹介や診療相談を行うことにより、病診連携を習得する。

#### 三菱京都病院

地域医療の中核病院の勤務医として、皮膚科外来診療のエッセンスを会得し、入院診療では代表的皮膚疾患の標準的治療法等を習得する。また診療の補助的業務をこなす中で、各種処置法、手技を身につける。週1回の臨床カンファレンスに参加し、肉眼所見、病理組織所見のとらえ方を学ぶ。月1-2回の最新英文論文の抄読会で学習成果を発表する。褥瘡回診や褥瘡カンファレンスを通してチーム医療に関与する。日本皮膚科学会主催の必須講習会を年1回受講し、年に2回程度筆頭演者として学会発表を行う。年1篇の症例報告論文を執筆する。レセプトチェックを通して保険診療の要点を理解する。近隣で行われる皮膚科関連学会、学術講演会、セミナーなどに積極的に参加して最新の知識を身につけるとともに、顔の見える形での病診連携を実践する。病院内で実施される医療安全講習会、院内感染対策研修会、医療倫理研修会などに積極的に出席する。地域で開催される緩和ケア講習会にも参加する。

#### 医療法人清仁会 洛西ニュータウン病院

外来/病棟診療、処置、手術法を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講。学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

#### 関西電力病院

地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。京都大学医学部皮膚科のカンファレンス、週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

#### 赤穂市民病院

研修内容は内科入院患者の皮膚科・褥瘡回診と、一般皮膚科の外来診療が主とな

る。また診療に難渋する症例は、大学病院に患者紹介や診療相談を行うことにより、病診連携を習得する。

#### 公立豊岡病院組合立豊岡病院

地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。

#### 研修の年間予定表

月	行事予定
4	1年目：研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。2年目以降：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。
5	
6	日本皮膚科学会総会（開催時期は要確認）
7	
8	研修終了後：皮膚科専門医認定試験実施
9	
10	試験合格後：皮膚科専門医認定
11	
12	研修プログラム管理委員会を開催し専攻医の研修状況の確認を行う（開催時期は年度によって異なる）
1	
2	5年目：研修の記録の統括評価を行う。
3	当該年度の研修終了し年度評価を行う。皮膚科専門医受験申請受付

#### K. 各年度の目標：

1, 2年目：主に天理よろづ相談所 病院 皮膚科において、カリキュラムに定められた一般目標、個別目標（1. 基本的知識 2. 診療技術 3. 薬物療法・手術・処置技術・その他治療 4. 医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識 5. 生涯教育）を学習し、経験目標（1. 臨床症例経験 2. 手術症例経験 3. 検査経験）を中心に研修する。

3年目：経験目標を概ね修了し、皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。

4, 5年目：経験目標疾患をすべて経験し、学習目標として定められている難治性疾患、稀な疾患など、より専門性の高い疾患の研修を行う。3年目までに習得した知識・技術をさらに深化・確実なものとし、生涯学習する方策、習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり、その成果を国内外の学会で発表し、論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり、研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。

毎年度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、大阪地方会、京滋地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し、診療能力の向上に努める。PubMedなどの検索や日本皮膚科学会が提供するE-ラーニングを受講し、自己学習に励む。

#### L. 研修実績の記録：

1. 「研修の記録」を、日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、利用すること。
2. 「研修の記録」の評価票に以下の研修実績を記録する。経験記録（皮膚科学各論、皮膚科的検査法、理学療法、手術療法）、講習会受講記録（医療安全、感染対策、医療倫理、専門医共通講習、日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会、専攻医選択講習会）、学術業績記録（学会発表記録、論文発表記録）。
3. 専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。
4. 専攻医、指導医、総括プログラム責任者は「研修の記録」の評価票を用いて下記（M）の評価後、評価票を毎年保存する。
5. 「皮膚科専門医研修マニュアル」を、日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、確認すること。特に p.15～16 では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

**M. 研修の評価：**

診療活動はもちろんのこと、知識の習熟度、技能の修得度、患者さんや同僚、他職種への態度、学術活動などの診療外活動、倫理社会的事項の理解度などにより、研修状況を総合的に評価され、「研修の記録」に記録される。

1. 専攻医は「研修の記録」のA.形成的評価票に自己評価を記入し、毎年3月末頃に指導医の評価を受ける。また経験記録は適時、指導医の確認を受け確認印をもらう。
2. 専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価、指導医に対する評価、研修施設に対する評価、研修プログラムに対する評価を記載し、指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合、研修プログラム責任者に直接口頭、あるいは文書で伝えることとする。
3. 指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また、看護師などに他職種評価を依頼する。以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。
4. 研修プログラム責任者は、研修プログラム管理委員会を開催し、提出された評価票を元に次年度の研修内容、プログラム、研修環境の改善を検討する。
5. 専攻医は研修修了時までに全ての記載が終わった「研修の記録」経験症例レポート15例、手術症例レポート10例以上をプログラム統括責任者に提出し、総括評価を受ける。
6. 研修プログラム責任者は、研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し、総括評価を記載した研修修了証明書を発行し、皮膚科領域専門医委員会に提出する。

**N. 研修の休止・中断、異動：**

1. 研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。
2. 研修期間のうち、産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大6ヶ月までは研修期間に認められる。なお、出産を証明するための添付資料が別に必要となる。
3. 諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要がある場合、すみやかにプログラム統括責任者に連絡し、中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

**O. 労務条件、労働安全：**

専攻医の就労環境については、勤務する病院の就労規則に従い、当院では公益財団法人天理よろづ相談所年棒制嘱託職員、就業規則に基本的に従う。選考委の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と産業医で管理する。特に、精神衛生上の問題点が疑われる場合は産業医による面談を行う。また、専攻医は採用時に労働環境等の説明を受けることになる。プログラム管理委員会では各施設における労働環境等に関して報告され、これらの事項について総括的に評価する。

2027年4月22日  
公益財団法人 天理よろづ相談所病院皮膚科  
専門研修プログラム統括責任者  
古田 浩大